

社協 とやま

発行 戸山学区社会福祉協議会

編集 広報部会

戸山の人口

増加の兆しも

戸山学区社会福祉協議会会長 二反田 正康
本年もよろしくお願いいたします。コロナが早く落ち着いてほしいものですね。新春3題―。

★戸山の人口が増える 広島市の人口統計によると、戸山で昨年の3月末から10月末の半年余で6人増加。特に9月末から10月末の1か月で13人増えていました。この数字を見た安佐南区役所の担当者が「エッ」と驚かれたとも聞きました。若い人たちによる空き家の賃借・購入、空き地を購入しての新築が増えています。増加の内訳は不明ですが、移住者たちの増加が戸山の人口を底上げしている可能性も!?この流れが続けば、と願っています。

★アンケートご協力を 社会福祉協議会の活動として何が求められているのか。あらためて地域の皆さんの声を聞かせていただくと考えています。高齢化で後継者が不足し、休眠を余儀なくされる組織も目に付くようになりました。そんな中で、社協活動のありかたを考える材料にさせていただきます。1月の集金日でアンケートを配布、2月集金日で回収〜くらいの日程。皆さまのご協力をお願いいたします。

★戸山の羅針盤

これは残念な話ですが、社協メンバーの戸山民俗資料保存会の前会長であった中川博さんが昨年11月、急逝されました。72歳。戸山の農家の暮らしや伝説、昔遊び、被爆体験記、災害史、など幅広い分野の歴史を書き残す保存会活動を10年にわたりリードしてこられました。いきいきサロンで、中川さんの話を聞かれたり、映像をご覧になった方も多いことと思います。また地域活動にも積極的に参画。さまざまな戸山の難題に道筋をつけられ、多大な貢献をされました。残念なお伝えです。合掌

新しい年を迎えて

戸山学区町内会連合会会長 衣笠 正憲

新年あけましておめでとございます。皆様には、健やかに新春を迎えられたこととお慶び申し上げます。

平素より戸山学区町内会連合会の活動にご理解とご協力をいただきありがとうございます。

昨年同様、コロナ禍で町内会連合会の行事は制約され、規模縮小や中止にせざるを得ない状況下で、皆様にはご迷惑ご心配をおかけして申し訳なく思っています。今年こそは、新型コロナウイルス感染症の終息で制

限のない行動や集会ができると信じていました。が、新春よりオミクロン株による感染者急増で危機的状況になりつつあります。今後の推移を見守りながら、今年当面やるべき事は何かと考えてみます。まず戸山の町づくりの見直しです。

町づくり委員会の下部組織として六つの部会がありました。二つの部会が役目を終え廃止となり、残りの四つの部会がそれぞれに特徴を生かしていかに活動すればよいか、今一度再確認できる場と機会を与えていくこと。

次に、戸山の魅力・活力を再発信し都会の人を呼び込み交流を深めること。さらに皆様が安心・安全に暮らせるための防犯・防災のための町づくりや高齢者の孤立化防止策を講じる町づくりを計画し実践することです。

なお、恵下埋立地とその関連は今年の中頃完成の予定でしたが、昨年八月に道路広島湯来線で不明峠手前が崩壊し通行止めとなり、このため完成は一年以上遅れることになりました。コミュニティ広場・桜峠大原出口三差路改良工事は、今年完成の予定です。

皆様には寒さ厳しき折、お体をご自愛ください。皆さまのご協力をお願いして挨拶にさせていただきます。

令和3年の

社協活動

新型コロナウイルス感染症の長期化により地域福祉活動の取組みが、中止あるいは延期となり、いきいきサロンや百歳体操など通いの場の開催に多大な影響が出ています。これまで地域の通いの場を利用していた高齢者の方々が、外出を控え自宅で長い時間を過ごすようになり、運動不足や社会活動が減少し、フレイル(高齢者の虚弱)になるリスクの上昇、地域福祉活動に参加するモチベーションの低下など様々な課題が生じています。

このような状況の中、学区社協では地域での見守り・支えあい事業についての会議の開催や夏休み子供サロン、いきいきサロン戸山全体集会の開催、修道大学との交流事業など役員、ボランティア世話人、民生児童委員協議会との連携により取り組みました。

会議の開催



9月15日
近隣ミニネットづくり検討会議

サロン世話人会議では、コロナ禍における各サロンの活動状況やサロン「通いの場」を契機として日々の交流や支えあいにつなげ、介護予防の活性化を図ることなどについて話し合いをしました。また、近隣ミニネットワークづくり検討会議では高齢者見守り活動において、ひとり暮らし高齢者等の現況情報を共有し、みまもり支えあい活動「見守りネット」を推進することなど話し合いました。

夏休み子供サロン開催



8月5日(日) 参加者25名

昨年に引き続いてコロナ禍における感染予防に注意し、午前と午後にわかれて「草木絞り染め体験」を行いました。参加した児童からみんなと一緒に楽しくTシャツを染められて楽しかった。色々な染め方があって面白かったなどの感想がよせられました。

いきいきサロン
戸山全体集会開催

11月10日(水) 参加者83名

第1部を人権擁護委員としてご尽力されている法隆寺副住職の森岡恵隆さんの人権講座「わ・た・し」の題で講演をしていただきました。第2部では、三王原に在住の山田由香さんの声楽とピアノ、フルートの演奏者で唱歌や童謡など素晴らしい歌声と演奏を聴き、穏やかな時間を過ごすことができました。

修道大学による配食



11月から12月に4回の日程
延べ160人に弁当を配食

今回で4年目となる事業で、健康科学部健康栄養学科の学生からは心あたたまる手紙が添えられた弁当を届けてもらいました。会場では献立の説明や参加者との問答など交流が図られ有意義な時間を過ごせました。



これからも、戸山学区社協は住民同士の支え合い活動が維持・継続されるよう、新型コロナウイルスの感染を正しく恐れながら、感染予防に十分配慮して「集まれる」ように柔軟で効率的な社協活動を進めていきたいと思ひます。

(事務局)

八つ花の舞



昨年より前任の岩森憲雄に変わりまして阿刀神楽団団長に就任いたしました浜広直樹と申します。

さて、戸山の皆さんには身近な存在である阿刀神楽ですが、この阿刀神楽のこと、どのくらいご存知でしょうか？

阿刀神楽は広島市、廿日市、大竹市などに伝わり、毎年秋祭りの前夜祭に十二の舞を奉納することから「安芸十二神祇」と呼ばれる神楽に属しています。しかし、阿刀神楽は他の安芸十二神祇神楽とは違う特徴を持っています。それは、江戸時代後期に周防の国より宇高宗助という武芸の達人が戸山に移

実はずい！

阿刀神楽の話

阿刀神楽団 団長 浜広 直樹



り住み、元々は素朴な舞であった阿刀神楽に、武術の一種である「柔術」の技を取り入れたと伝えられていることです。その要素は今でも色濃く残っており、「八つ花の舞」の中には他の神楽では類を見ない、非常にアクロバティックな動きが取り入れられています。この舞は神楽の研究に注力されていた三村泰臣氏の著書「広島神楽探訪」の中で「八つ花の舞は全国有数の美しい舞」と称されています。また、「世鬼の舞」で使用される衣装も金糸や銀糸をふんだんに使用して作られた非常に貴重な衣装で、現在の金額で換算すると1500万円以上の費用をかけて製作された全国でも有数の高価な衣装なのです。

現在阿刀神楽団は大人子供合わせて30人の団員が所属しています。しかし、この伝統ある阿刀神楽を継承していくにはまだまだ人数が足りません。そこで、この場をお借りして団員の募集をさせていただきます。阿刀神楽に興味がある、昔ちよっと習っていた方など、大人



世鬼の舞

や子供を問わずどなたでも大丈夫です。我々と一緒にこの戸山に伝わる貴重な阿刀神楽を継承しませんか？

ご興味がある方は阿刀神楽団事務局までご連絡ください。

瀬川商店

082-836-2111
atokagura@gmail.com



民泊「かきもと」

戸山で子育て世代が増加中

戸山まちづくり委員会定住促進部会
部会長 小西晃祐

いつもご支援ご協力いただきありがとうございます。
元気な戸山を残したい。そんな思いで私たちは若い世代のUターンや移住を希望される方々を支援しています。

おかげさまでこれまでに16家族の移住に携わり、今年は6組のご

家族が戸山に転入されました。それに伴い、戸山全体の人口が一ヶ月で13名の増加という今までにない事象が起

こつています。ご存知のとおり、残念ながら戸山の人口は減少し続けていますが、若い子育て世代が増えることで、元気な戸山を残していけると考えています。

最近では空家の家主さん、空地の地主さんの方から情報提供やご相談をくださることもあり、非常に嬉しく有り難いと感じています。しかし現在29組のご家族が戸山に住みたくても住む場所が無く、良いご縁を待つておられる状況です。私たちは基本的に現状渡しという形で紹介しておりますので、貸したり売ったりできる空家・空地があれば、ご連絡いただければ幸いです。

11月10日付けの中国新聞に掲載された阿戸の民泊「かきもと」は、主に移住希望者が戸山暮らしを体験して、実際の通勤時間や普段知ることのできない戸山の朝と夜を

感じてもらうための施設です。

皆様の周りにも移住を希望される方や戸山を含め将来田舎暮らしをしたい方、戸山に強く興味を持たれている方がいらつしやれば是非ご紹介くださいますようよろしくお願い致します。

小西 090-6407-6045

善意銀行への御寄付

ありがとうございました

令和三年九月から

令和四年一月まで (敬称略)

◆香典返しにかえて

- | | | |
|-----|-------|------|
| 町内会 | 寄付者名 | 物故者名 |
| 上吉山 | 沖 正博 | 沖 順三 |
| 阿戸下 | 沖野成計 | 沖野浪江 |
| 上吉山 | 畑 好子 | 畑 左内 |
| 上吉山 | 下田恵智子 | 下田影夫 |
| 上吉山 | 林ミチ江 | 林 年春 |

◆一般寄付

- | | |
|-------|----------|
| 町内会 | 寄付者名 |
| 下吉山ほか | 山本義宏ほか三名 |
| | 老健とやま |
| 中 王 | 徳田英彦 |

編集後記

明けましておめでとう
ございます。

平成から令和に年号が変わり、早いもので三年が経過しました。

令和になつた途端、過去を振り返つても経験のないような出来事が日本も含め全世界を巻き込みました。「新型コロナウイルス感染」一端落ち着いたかと思うと「変異株・オミクロン株」が発生し今現在、感染の拡大が続いています。

社協活動は無論、戸山管内の各種団体の行事も軒並み中止が続いています。令和四年こそ、一度に通常の活動には戻れないにしても少しずつでも、地域の皆様との関わり合いが出来る事を願うばかりです。

本年もよろしくお願い致します。

広報部

